

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	音声障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水曜3, 4限他	教室名	4校舎401
担 当 教 員	磯部知里、小川れい	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
発声器官の解剖・メカニズム、音声障害の評価・治療について学習し、臨床において必要な知識・技能を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:発声発語障害学 第3版(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
教科書や配布資料・ノートを見直し、復習して知識を定着させましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
1年生前期の「呼吸器系」で学んだ内容をふまえ、発声のメカニズムや音声障害の評価・治療について学んでいきましょう。わからないことはそのままにせず、適宜質問してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声器官の構造及び、声の特性と機能・調整について説明できる。	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	1年生で学んだ発声器官の解剖について予習しておいてください。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	発声器官の解剖について学習する。 声の特性や物理的特徴について学習する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声の生理と調節について説明できる。	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	教科書や前回は配布した資料をもとに復習しておく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	発声の生理とその調節について学習する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の発生メカニズムや分類について説明できる。①	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	教科書や前回は配布した資料をもとに復習しておく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	音声障害の定義・病態、器質的病変に基づく音声障害について学習する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の発生メカニズムや分類について説明できる。②	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	教科書や前回は配布した資料をもとに復習しておく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	声帯の器質的病変・運動障害に基づく病変・気管切開について学習する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の検査・評価・診断について説明できる。①	教科書、PC、プロジェクター、配布資料、スピーカー	教科書や前回は配布した資料をもとに復習しておく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	音声障害の検査やその目的について学習する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の検査・評価・診断について説明できる。②	教科書、PC、プロジェクター、配布資料、スピーカー	教科書や前回到配布した資料をもとに復習しておく。
		各コマにおける授業予定	音声障害の評価と診断について学習する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の治療について説明できる。	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	教科書や前回到配布した資料をもとに復習しておく。
		各コマにおける授業予定	音声障害の薬物治療・外科的治療について学習する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害のメカニズム・病変・評価・診断について整理し説明できる。	教科書、PC、プロジェクター、配布資料	教科書や前回到配布した資料をもとに復習しておく。
		各コマにおける授業予定	授業の振り返りをする。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の解剖、仕組み、声帯について図解で示し説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	喉頭の筋、神経、声帯振動やその検査法、発声の仕組みについて復習する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の種類と声の異常について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	音声障害の種類と声の異常について復習する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声治療法を説明できる。-①	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	音声治療法を演習を通して学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声治療法を説明できる。-②	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	音声治療法を演習を通して学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭摘出後のリハビリテーションについて説明できる。-①	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	喉頭摘出後のリハビリテーションについて学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭摘出後のリハビリテーションについて説明できる。-②	資料配布 パワーポイント	配布資料と教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	喉頭摘出後のリハビリテーションについて学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害学の内容について理解して説明できる。	PC、プロジェクター、スピーカー	同上
		各コマにおける授業予定	音声障害学の総括		